No.20
2004. 9. 1

地球の木

地球上のすべての人たちと共に生きたい

■発　　行　特定非営利活動法人
地球の木 理事会
■発行責任　丸谷士都子
■編　　集　広報部
■事 務 局　〒231-0032
横浜市中区不老町1-3-3
フェニックス関内2F
TEL　045-228-1575
FAX　045-228-1578
E-Mail:CZR10753@nifty.ne.jp
http://homepage1.nifty.com/EarthTree

CONTENTS

●平和の種が芽を出した　●渾沌の中に一筋の光を見た　●ネパールの女性たちに勇気づけられて　●支援地から　●ブランチから
●南北コリアと日本のともだち展2004　●NEW STAFF紹介　●フジロック・フェスティバルに地球の木も出展　●活動日誌　●INFORMATION

平和の種が芽を出した

地球市民教育担当理事　中野 真理子

「**自分**たちが持っているものを相手が持っていないからといって見下すのではなく、自分にはなくて相手にあるものをお互いに学びあうことが国際平和につながると思います」と堂々とスピーチをしたのは中3の生徒。お母さんの国フィリピンについて皆が「貧しい」というイメージを持っていると知ってショックだったと言います。時々帰国するフィリピンでは、たくさんの親戚がみな助け合って暮らしていて、海や夜の星がきれいで、貧しいなんて思ったことはなかったから。

2年連続で区の代表に選ばれた坂入尚美さん＊

また、中2の生徒は「日本人は何でもある便利な生活が『豊か』で、物が少なく不便なことを『貧しい』、『かわいそう』と思っているけど、一つの価値観でしか物事を判断していないと思った」と言いました。そして「アンコールワットの修復に強い思いを抱くカンボジアの人たちには心の財産がある」とも。

地球の木が行ったネパールの読み書き教室のワークショップに参加した生徒は「字を学ぶということは自信を持って生きていくことにつながる。こういう読み書き教室を世界に広げたい。そして自分もいろいろな出会いで成長していきたい」と夢を語りました。

これは横浜市立平楽中学校で行われたスピーチコンテストの一幕です。「途上国から学ぶ」という趣旨で大勢のNGOを学校に招いてそれぞれの活動を参加型のワークショップ形式で学習します。エイズの話あり、地雷の話あり。のどかなアジアの農村の暮らしに思いをはせたり、バナナ生産者の苦労をロールプレイで演じてみたりと、普段ほとんど触れることのないアジアの国々のことを学ぶ国際学習を5年間にわたって実施してきました。

単に外国の話として終わらせたくないと、学習の最終段階で、地域に暮す中国や韓国の方を招いて話を聞きます。そして、この幾重にも積み重ねた学びから考えたこと、気づいたことを生徒たちはスピーチ原稿にまとめます。1年生から3年生まで、10人の学年代表のスピーチは、どれも深い学びが感じられるとてもすばらしいものでした。地球の木は、教員研修や出前講座など、当初から深く関わってきましたので、国際学習の成果に感動を抑え切れませんでした。

ただNGOに任せるのでなく、担任の先生全員が開発教育を学び、クラスでワークショップをするという経験が、実はこの平楽中の全校的な協力体制をしっかり支える力となっているのだと思います。

私たちNGOが学校に入って途上国の話をすることで、今まで知らなかった世界への扉が開かれます。今までかわいそうな国としか見なかった国で、人々が、生き生きと助け合って暮らす姿に接します。今では私たちが失ってしまった、生きていくための様々な知恵に触れ、現代の日本にはない、ゆったりとした時間の流れや価値観を感じることで、途上国の良さ、豊かさを発見します。それが日本や自分たちを振り返るきっかけとなるのです。そしてこの学校に少なからずいる外国にルーツを持つ子どもたちが、ダブルであることや、日本名ではなく本名に誇りをもっているとスピーチで語ることができるのは、ふだん学校の仲間たちに受け入れられているからこそなのでしょう。国際学習はこういった変化をこの学校にもたらしたのです。

世界を見渡せば、昨日も今日も悲しい戦いが果てしなく続きます。このあまりにも大きな現実に対して私たちはどう立ち向かえばいいのでしょう…平楽中の試みは、少しずつですが、確実に、未来を担う地球市民たちを育てていると思います。学校という小さな社会でも様々なバックグラウンドを持った人たちがいます。途上国からの学びにより、それぞれが違いを認めあいながら、お互いのよさを尊重する多文化共生社会の芽がこの学校には育っているのです。自分たちの身の回りから少しずつ変えていくことが平和につながる着実な道だと思います。地球の木が蒔いてきた平和の種が子ども達の中で芽を出してきているのだと実感したスピーチコンテストでした。

＊10月17日(日) 11時～12時50分　横浜国際協力まつりにて、中学生のトークセッション「世界が見える　自分が見える」で発表します。

ネパール調査報告2004

混沌の中に一筋の光を見た

ネパールチーム　乳井 京子

2004年5月1～7日、調査と交流のためカトマンズ郊外のイマドール村を訪れました。そうです。ここはSOARS代表のニルマラさんが12歳の時に識字教室を始めた活動発祥の地。やっと家具調度も整った人材育成センターに泊まり、ニルマラさんを「ディディ」（お姉さん）と慕う元気な女性たち、そして、羨ましいほどに純粋な若者たちと交流を深めてきました。（ユースクラブのレポートは前号をお読み下さい）

マオイスト（毛沢東主義派）と政府軍の攻防が激しさを増し、極西部カイラリ郡は危険地域に指定されていたため、今回は足を伸ばすことができませんでした。しかし、幸いなことにローカルスタッフのアルジュンが、政府軍の25回にわたる検問を潜り抜けてカトマンズに出てきてくれたお陰で、現地の状況を知ることができました。

混迷が続く

カトマンズ市内では連日、国王の圧政に対して民主政治の回復を求める民衆のデモが行われていました。車を焼くなど過激な抗議行動もテレビで報道されていました。中央政府だけでなく地方政府も国王の掌中にあり、村長まで国王が任命すると聞いて驚きました。

政府軍は英米やインドの軍事支援を得てマオイスト掃討作戦を強化しました。マオイストが家に立ち寄ったというだけで、家族が政府軍によって皆殺しにされたという話もアルジュンから聞きました。政府軍による誘拐、警官による略奪やレイプも横行しています。

外部者の村への出入りはマオイストによって厳しく監視されており、シャプラニールの現地駐在員は村に入れなかったそうです。マオイストが「アメリカは敵であり、アメリカにくみする日本、イギリス、オランダ、イタリアなどもみな敵視する。従って、それらの国々のNGOも敵とみなす。いかなるNGO活動も認めない」という声明文を出したという話、NGOの事務所を爆破したという話を耳にします。しかし、幸いなことに今のところ、カイラリ郡のプロジェクト地周辺のマオイストたちは、「NGOはいい活動をしているので必要だ」と言い、「識字教室をやるなら森の近くは危険なので、村の中でやった方がいい」とアドバイスしてくれたそうです。

協同組合作りを目指すイマドールの女性たち

「地域づくりに取り組むユースクラブの若者たちはアツイ」

「もっと識字教室を！」

このような不安定な状況にもめげず、プロジェクトは続行しています。アルジュンの住むニムディ村―100パーセント識字を達成したモデル村―では、近隣に移住してきた元カマイヤ（解放前は、農奴のような存在だった）からの依頼で10～15歳の子どもたち25人を対象とした識字教室が実施されています。早朝、コミュニティーセンターで教鞭をとるのはアルジュン。もう1つの識字教室では、成人25人が学んでいます。ニムディ村の隣のカレイチャ村でも成人識字教室が2クラス開設され、識字のニーズは増える一方です。

1,000ルピー稼いだら…

農業トレーニングを受けた人々は今、毎日マーケットに野菜を売りに行っています。1日平均400～500ルピー（1ルピーは1.5円）の収入を得られるようになり、子どもを寄宿舎のある学校に入学させた人もいます。

1,000ルピー稼いだ日は皆にお金を分けてあげたという話を聞いて、1998年極西部を訪れた時のことを思い出しました。私たちがお土産に持っていった20個ばかりの小さなお餅を更に細かく刻んで60人くらいの村人たちが分け合っていました。

人材育成センターは情報の発信地

ニルマラさんの永年の悲願だった人材育成センターが、NGOトレーニングや女性たちのミーティング、ユースクラブの総会などに広く使われていました。他団体への貸し出しも行われており、嬉しそうな参加者の笑顔に出会いました。「ここで学んだことを村で実践します」と語る若い女性。「妻が勉強すると家族が変わります」奥さんをセンターまでオートバイで迎えに来た男性の言葉です。センターの運用によってSOARSが活動資金を捻出できるようになったことは、とても喜ばしいことです。これからも更なる自立をめざしたサポートを行っていきたいと思います。

ネパールの女性基礎データ

日本と比較してみました。

	ネパール	日本
【公的地位】		
女性が参政権を取得した年	1951年	1945年
女性国会議員の割合（2002年）	7.9%	10%
女性大臣・次官の割合（2000年）	14.8%	5.7%
【教　育】		
識字率（15歳以上）（2000年）	女性24%　男性59.6%	
人口1,000人当りのテレビ台数（1997年）	6台	686台
小学校入学者の5年生在籍率（1995～1999）	44%	100%
【健　康】		
乳児死亡率（1歳未満児）	66人/1,000人	3人/1,000人
5歳未満児乳児死亡率（2001年）	91人/1,000人	5人/1,000人
妊婦死亡率（出生10万人に対して）	540人	8人

出典：国連データベース2002、ユニセフ「2003年子ども白書」、「世界の国一覧表2002年版」

ネパールの女性たちに勇気づけられて

ネパールチーム　真矢 公子

今回のネパール調査の大きな収穫のひとつが、カトマンズ郊外イマドール村周辺の女性グループと、カトマンズ市内で活動する現地NGO・SOUPの女性たちとの交流が、日本のNGO「シャプラニール」の協力で実現したことです。

女性グループはこれまでSOARSの指導のもと、ジェンダートレーニングのほかに石けん作りなどの小規模事業を起こすトレーニングをしてきましたが、近くにマーケットがないことや販売促進の知識が乏しいなどから、事業化するまでには至っていませんでした。

「シャプラニール」が支援するSOUPは、カトマンズ市内.の貧困層の女性たちを対象に識字教室を開催し、さらに受講者たちに仕出しサービスやせっけんや手工芸品の製作・販売などの起業をトレーニングして事業化に結びつけるなど、着実な成果を上げています。

「こんな小さなキッチンで仕出しをやってるの？私たちにもできるかもしれないね！」とイマドールの女性たち

カトマンズの女性起業家たちの話は学ぶことが多い

5月6日、カトマンズ市内の旧市街の一角にあるSOUP事務所を、イマドールの女性グループとユースクラブの女性たち、ニルマラさん、SOARSスタッフ、そして私たち地球の木メンバーが訪れました。夫を説得し、仕事を休んで参加したイマドールの女性たちは、どうして成功したのか、貯蓄で集めたお金をどう有効に使ったらいいか、出資金はいくらかなど、SOUPの女性たちに積極的に質問を投げかけていました。

その後、仕出しサービスのキッチンや事務所、石けん工場と石けんの販売所、手工芸品の共同作業所などを熱心に見学して回りました。

彼女たちが活発に意見交換する様子から、ネパール語はわからなくとも、ネパールの女性たちの前向きで意欲的な姿勢が伝わってきて、私たちが逆に励まされる思いでした。

石鹸で足の踏み場もない販売所

支援地から

カンボジア　「るしな」から カンボジアの現状を見る

頭に巻いたクロマーは
松本さんのトレードマーク

7月26日猛暑の中、カンボジア現地プロジェクト代表の松本清嗣氏による報告会を開催しました。現在行っている農村開発の受益者は、3州8,000世帯4万人に及び、貸付金の返済もおおむね順調に行われ、協同組合資金で、村の土木事業、ヘルスセンター作りなどを行っているそうです。支援金が循環し、うまく協同組合が機能している所と、毎年のように水害や干ばつに見舞われて、まだまだ自立に程遠い所などもあるようです。他に保健分野では、衛生環境の改善やエイズに対する広報活動を行っていますが、まだまだ資金が不足しているそうです。女性への貯蓄・少額貸付活動は、大変順調に推移し、女性たちの生真面目さは今後の社会の復興や改革に大きく影響するだろうということでした。

さて、今、最も松本氏が力を注いでいるトンレサップ湖の環境保全と漁業協同組合作りの話は、大変興味深いものでした。アジア開発銀行や世界銀行の資金が大量に導入され、環境保全どころか汚職がはびこり、一部の官僚や権力者にお金が集中してしまう構造は、カンボジアでも顕著なようです。そのような中で、零細・小中規模の漁業生活者の生きるための漁業を守り、それが環境保全にも繋がる「るしな」の活動には目をみはるものがあります。大型魚の乱獲、目の細かい網による違法漁業、浸水林の伐採などで危機に瀕する湖は、急激にその漁獲高を落としています。2000年に政府が打ち出した漁業改革方針により56％の占有漁場を解放したにもかかわらず、その後の混乱に乗じて警察官や下級官僚が、違法漁業者からお金をもらって目こぼしをしたり、今までの利権を持つものが力で大量の魚を獲っていたりと、村レベルでの改革には様々な利権の構造が邪魔をして乱獲が止まらないようです。「るしな」の活動地では、地域の警察、漁業局、協同組合が一体となって違法な仕掛けを取り去り、漁具の監視をし、汚職の根絶をはかり、一年で魚が増えるという結果をもたらしています。また、栄養豊富な湖底の泥は魚が減った分えびの大漁という恵みを与えてくれています。協同組合が作った定款は、漁具の規制など厳しいものでしたが、結果的に魚が増えたり、よそからきた漁業者に対して効力を発揮するなど良い方に展開したことで、厳しい規制に文句を言う組合員もいなくなったそうです。

電話で脅かされたり、嫌がらせを受けたりする「るしな」スタッフや漁民の命をかけての取り組みに、日本からの応援の歯がゆさを感じるとともに、私たちの税金や、貯蓄の資金が巡り巡って、途上国でどう使われているのか監視する必要性を感じた報告会でした。

（カンボジアチーム　小泉　惠子）

プロジェクト名　●バッタンバン州のチャイルドケアセンター支援

ラオス　ダム建設は貧困削減につながるのか

「この地域は、戦争のときに、いろんな人が逃げてしまったけど、父母はここに残って生活することを選びました。わたしもここで生まれ育ってきたのです。広い土地もあり、がんばって家畜も飼えるようになりました。だけどダムができれば、土地もない、家畜も飼えない、商品作物をつくっても市場もない、そんなところに移らなければなりません。いままで築いてきたもの全てを失うかもしれないのです」

プロジェクト対象村のナカイヌア村は、建設予定の水力発電ダムのナムトゥン第2ダムによって、村の半分以上が水没するため、移住を余儀なくされています。ラオス政府は、この事業による収益を、最貧国に指定されているラオスの貧困削減のために使う予定です。また、このダムによって移住させられたり、影響を受けたりする人々には、これ[illegible]より豊かな生活を送れるような補償プログラムが用意されています。

ナカイヌア村の全景
ダムができると中央の道路から右側は、すべて水没する

ところが、先日村を訪れた際、冒頭のような発言が、あるお母さんから出てきました。他の村人からも同じような発言が、次から次へと飛び出したのです。我々に同行していた政府の[illegible]政官の前でも臆することなく、これらの懸念を表明していました。移転住民に対する補償プログラムは、人々の生活を向上させることが約束されているはずですし、その補償プログラムの説明は、村人は十分受けているはずです。ところが、移転先の土地を実際に見に行くと、その土地が狭かったり、土壌が悪かったりし、また補償プログラムの中に記されている将来の状況が本当に実現されるのかどうかについても、疑問をもったために、このような発言が出てくるようになったのだと思います。

「たしかにこの村は、たびたび洪水があるので、われわれの暮らしぶりは貧しい。だけど、生きていけるだけの十分なものが、ここにはある。移住したとしても、もらえる土地は少ないし、使える森も少ない。本当にダム建設は、われわれの貧困削減につながるのだろうか？」村のリーダーのこの言葉が、村人の意見を代弁しています。果たして、貧困削減をうたうダム建設は、本当にこの地域の貧困削減につながるのでしょうか。ダム開発が大きな潮流であるなか、ややもすればかき消されてしまいそうになる村人の懸念を、JVCはダム政策の意思決定者にしっかりと伝えていこうと思います。

（JVCラオス事務所　名村　隆行）

●カムアン県　森林保全・自然農業支援

フィリピン　自信を得た女性たち

PAP21の活動に今年から女性プログラムが加わり、6月22日からの3日間、ジェンダーワークショップが実施された。まだ出会ったことのない12人が一同に会し、妻、母を超えて女性としての問題を話し合うセミナーを行った。大雨にもかかわらず、15人がツブラン農場に集まった。最初ははずかしそうにしていた彼女たちも、打ち解けてくるとまるで修学旅行の女学生のようなはしゃぎよう。それもそのはず。テーマは「セックスとジェンダー」。狭い村社会ではなかなか口に出せない家族内の問題、夫との関係、姑や親戚との葛藤、村の人間関係、女たちの嫉妬や噂話のいやがらせ、男たちの暴力…涙と笑いが交互に混じったワークショップは連夜1時、2時まで続いた。「貧乏だから」「女だから」「学校を出ていないから」という「だからづくし」で自分たちの夢もあきらめていた彼女たち。女たちが、様々なコンプレックスから他者を気にして自分を装ったり、無意識に自分を防衛している幾重もの壁を取り除いていくには、「セックスとジェンダー」というテーマのワークショップはいつも大きな助けになる。フィリピンのNGOはそれをファシリテートする独自の方法をいくつも持っていて、今回は現地NGOスタッフのハリーが男性であるにもかかわらず、農村女性たちと同じ目線と感性で3日間の「解放された空間」を創ってくれた。

参加者で一番高齢だった64歳のリサはこんな感想を述べていた。「小学校3年までしか行けなかった私にとって、セミナーに参加するチャンスは生まれて初めてだった。最初は緊張していたから、何をするのか検討がつかなかったけど、今はたくさんの事を学んだ。まずは、自分の事に自信がもてたのと、こんなにたくさんのミガ（友達）ができたこと。今度は農業のことを勉強できると聞いて本当にうれしい」

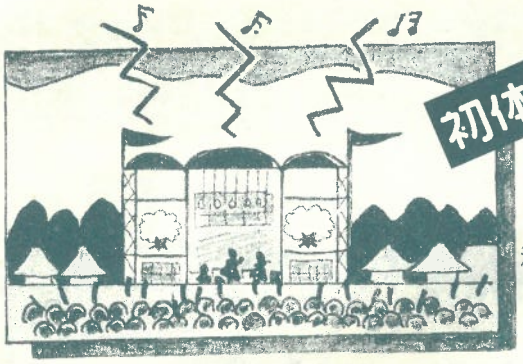
7月以降、彼女たちは有機農業、食品加工、販売、都市の消費者との産直運動などについて定期的に学習会を開いていくことにしている。そして、夫たちが研修して大いに影響を受けたセブ島の野菜農家と、今度は女性どうしの交流をしたいという、強い希望が出されている。　（JCNCネグロス駐在員　大橋　成子）

参加するのはあなたです！

「フィリピンの砂糖についての学習教材づくり」
9月からスタート

「ネグロス砂糖農園の人々」「新撰組と砂糖」「赤と黒」などをテーマにいろいろな角度から砂糖をみていきます。毎月1回のペースで行います。事務局までお気軽にご連絡下さい。

●レッツ・ゴー！ファミリープロジェクト



演奏の合間に
地球の木の
CMが流れた

初体験 フジロック フェスティバルに 地球の木も出展

空を見上げると、雲がめまぐるしく動いていて、青空が見えていたかと思うと雨がさっと降る山の天気。ここはフジロック・フェスティバル会場の奥まった一角に作られたNGOビレッジ。10あまりのNGO団体が軒を連ねる中、地球の木のブースは、屋根からよしずが垂れ下がり、この日のために大急ぎで作った地球の木の横旗が風にひるがえっています。みんなから借り集めたシーツの上に展示した写真、若者にも答え易いよう、何回も作り直したクイズ、Tシャツ。一番の気がかりは、ロックを聴きにくる若者たちの、はたしてどの位がここにやってきてくれるだろうかということでしたが、NGO村の暖かい雰囲気は、彼らにとっても耳休めのホッとする空間でもあるようで、案外たくさんの人が来てくれ、クイズも楽しそうにやってくれました。ふだんは触れることもないような、アジアの国の話、世界と日本の問題などをいろいろな若者に語ることができたのは、本当に嬉しいことでした。

地球の木のブースでは
アジアの写真展、クイズ、
Tシャツ販売が行われた。

大勢のロック
ファンがNGO
ビレッジを
訪れた

今年7年目という日本最大のフジロック・フェスティバルは、新潟県の苗場スキー場を舞台に7月30日から3日間開かれ、内外30組以上のロックミュージシャンが演奏を繰り広げました。山全体にまたがり配された6つのステージを結ぶ山道は若者で埋まり、ロックファンでなくても、山の中に出現した巨大なステージと、お腹に響く音楽には思わず「かっこいーい」と反応してしまいます。夜は夜で光のアートが素晴らしく、特に森の中でゆれるミラーボールは、あたり一面にやわらかな雪が舞うような別世界を作り出します。

今回の地球の木の出展は、地球の木サポーターズ「スプラウト*」が応募し実現にこぎつけました。リーダーの石原わかなさんを中心に、若い仲間たちが、メインステージ両脇に流すCMの作成、ビデオの編集をはじめ、ブースの設営やキャンプ関連の諸準備に素晴らしい力を発揮してくれました。　（広報チーム　斎藤　和子）

＊地球の木オリジナルTシャツ製作を皮切りに、地球の木の資金作りに去年から協力してくれている若者のグループ

「南北コリアと日本のともだち展2004」

7月7日～14日、東京都児童会館にて絵画展が開催されました。4年目を迎えた今年は、韓国、北朝鮮、日本に住む小学生の絵344点が展示されたほか、北朝鮮のこどもたちから直筆で自己紹介のメッセージも届きました。

7月11日に開かれた「ともだちワークショップ」では、絵画展に絵を出展したこどもたちを中心に、韓国から来た11人の子どもたちと交流の場を持ちました。

お互いに自己紹介をしあい、ゲームやクイズを楽しみ、北朝鮮のこどもたちにメッセージを書いたりしました。東京や神奈川、埼玉、千葉から約100名が参加しました。

北朝鮮の子どもの絵
「こんな大きなイチゴが食べたいな」

「北朝鮮の人びとと人道支援」

**ー市民がつくる
共生社会・平和文化ー**

日本国際ボランティアセンター（JVC）編

明石書店発行

北東アジアの平和的共生のため、北朝鮮をめぐる市民サイドの人道支援のあり方や交流活動の役割をJVCの活動、韓国の運動を通して考える。また在日コリアン、朝鮮学校の生徒が抱える現状に対する不安など、現場に携わる11人の筆者がレポートする。

ブランチから

ブランチ連絡会主催　エコ布わらじ講習会
―古布たちへいのちを吹き込む―

日本の米文化の中で育てられてきた私には強い郷愁をそそられる言葉のひとつにわらじがあります。7月6日「地球の木」事務所において藁ではなくタンスに眠っているいろいろな布を使うわらじ作り講習会が行われ、10名の参加がありました。講師は横浜市にお住まいの大内えりかさん。42歳で慶応大学環境情報学部に入学され、卒業後はエコライフ研究家として活躍されています。

わらじは、まずビニール紐を骨組みにして5㎝幅に裂いた布切れを丁寧にしっかりと根気よく巻きつけていきます。布は，参加者がそれぞれ持ち寄った子どものTシャツ，黄ばんだ浴衣、使わなかったさらし等、この機会にと探し出した思い出の品ばかりです。講師から「白い布は玉ねぎの皮で染めるとステキですよ」「わらじを履いて雑巾代わりに拭き掃除も出来ます。後は洗濯機で洗うだけです」等アドバイスを聞きながら編むこと3時間の充実した時を過ごしました。「次世代の人々のために限りある資源を大切に使いたい」という講師の思いに共感しました。物を大切に生きてきた年配の方々と今の子どもたちとのかけ橋になりそうなエコ布わらじ講習会。これからそれぞれの地域でも是非この講習会を開いていただきたいと思いました。　（相模ブランチ　稲葉　博子）

NEW STAFF紹介……事務局がさらにパワーアップ！

みなさま、はじめまして！！金木理沙（かねき　りさ）と申します。私はもともとはアジアを旅するぐ～うたらバックパッカーでした（笑）。でも、いつしか現地で出会う人々の温かさや、子どもたちのはじける笑顔、日本にはない「豊かさ」の虜になってしまい、遂にはミャンマーに１年間在住までし、かつアジアを拠点として活動しているNGOに５年ほど関わってきました。アジアの生活で体感した「豊かさ」や人間の温もり、生きることの尊さ…アジアで学んだことを今度は日本の子ども達に伝えていきたくて地球市民教育に興味をもちました。そして、地球の木と出会い、週２回微力ながらお手伝いさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願い致します。

活動日誌（6月～8月抜粋）

6月　1日　ブランチ連絡会・カンボジア帰国報告会
　　12日　草の根市民基金公開選考会にてプレゼン
　　13日　あじさいまつり（西湘）
　　13日　鎌倉女学院セミナー　出前講座
　　14日　東戸塚クラブ交流会（なんぶ）
　　19日　「NEWマジカルバナナ」ファシリテーター養成講座
　　今度はあなたがファシリテーター第1回
　　20日　JICA東京　出前講座
　　23日　アジアンフェアー
　　30日　デイサービスひまわりに出前講座
7月　4日　川崎国際フェスティバル（川崎）
　　6日　ブランチ連絡会･エコ布わらじ講習会
　　7日~14日　「南北コリアと日本のともだち展」IN渋谷
　　13日　市場中学校　国際理解出前講座
　　24日　「NEWマジカルバナナ」ファシリテーター養成講座
　　今度はあなたがファシリテーター　第2回
　　7月26日　かんぼじあ　光と風とスコールと
　　「るしな」代表　松本清嗣氏帰国報告会
　　7/30~8/1　フジロック・フェスティバルNGOビレッジに出展
8月　5日　JVCパレスチナ報告会
　　7日　寺尾中学校吹奏楽部に出前講座
　　「NEWマジカルバナナ」ワークショップ(なんぶ)
　　7日~8日　第22回開発教育全国研究集会2004（福岡）
　　「NEWマジカルバナナ]販売とワークショップ
　　20日　ブランチ連絡会・CELC代表大野喜久子さんのお話
　　20日　第41回全国国際教育研究会　神奈川大会にて発表
　　21日　夏休み！親子企画
　　ぶっ飛びアジア！　わくわくBOXワークショップ
　　21~28日　「南北コリアと日本のともだち展」IN平壌
　　29日　つるみオープンカフェ（とうぶ）

INFORMATION

NEWマジカルバナナ ワークショップ

アソシエーションサロン主催で「マジカルバナナ」のワークショップを行います。フリートーク、ティータイムも予定していますので、情報交換、交流の場としてぜひご参加ください。

日　時：9月18日(土)　13：30開始
場　所：オルタナティブ生活館2階オルタリアン
参加費：500円
主　催：アソシエーションサロン
参加申込：フォーラムアソシエ事務局　045-472-7093

今度はあなたがファシリテーター第2弾 もし世界が100人の村だったら

世界63億人を100人の村に見立てて世界の現実をわかりやすく描いたメッセージ「100人の村」。文字が読めない体験や世界の食糧配分の現実を体感します。

日　時：9月26日（日）13：30～16：00　13：15より
場　所：平沼記念レストハウス　第3号室
（横浜文化体育館内　JR関内駅下車徒歩5分）
参加申込：地球の木

共生アジアシンポジウム 法輪和尚と平和を語る

韓国でインドや北朝鮮の人道支援を行うNGOの代表と日本のNGO、仏教関係者、在日コリアンが北東アジアの平和について語ります。

日　時：10月2日（土）
会　場：築地本願寺講堂
東京メトロ：日比谷線「築地」駅下車徒歩1分
都営地下鉄：浅草線「東銀座」駅下車徒歩5分
シンポジウム：13：30～17：00
基調講演：法輪和尚（韓国JTS理事長）
パネルディスカッション：熊岡路矢(JVC)
朴慶南(作家)、神仁(平仏集)
入場料：1,000円
主　催：平和を学び願う青年仏教者の集い(平仏集)
KOREAこどもキャンペーン

横浜国際協力まつり2004

国際協力に携わる約100団体（NGO，サークル、小、中、高校のクラス、クラブなど）が参加するイベントです。国際色豊かなグッズや飲食販売、セミナーなどを行います。

日　時：10月16日(土)10:30～17:00
17日(日)10:30～16:00
場　所：横浜シンポジア・産貿ホール
（JR関内駅下車　徒歩10分）
地球の木は…
出　店：コーヒー、お菓子販売
地球の木セミナー：10月16日(土) 16：00～16：50
会　場：9階　応接室
メディアリテラシー「作ってみよう！北朝鮮報道」

国際協力フェスティバル2004

国際協力に携わる政府機関・NGOなどの団体が活動紹介や国際協力についてのイベントを行います。

日　時：10月2日(土)、3日(日)10：00～17：00
場　所：日比谷公園
地球の木は…
出　店：グッズ販売、活動紹介
セミナー参加：わくわくBOXワークショップ

フォーラムまつり

日　時：10月24日(日)10：00～16：00
場　所：女性フォーラム（JR戸塚駅から徒歩5分）
地球の木は…
パネル展示とネパールのカレー、ミルクティーを出します。
ボランティアを募集しています。

「少女たちが村を変えた」 シャプラニール全国キャラバン2004

シャプラニールの現地スタッフを招き、バングラデッシュの農村を変える力となっている少女たちの話しを聞きます。

日　時：11月3日(水) 10：00～12：00
場　所：かながわ県民活動サポートセンター705号室
参加費：500円
参加申込：地球の木

「アボンー小さい家」上映会 自然に感謝して生きていますか？

日系フィリピン山岳民族を描いたユーモアあふれるドキュメンタリー映画。

人間がこの地球で生きることはどういうことなのかを静かに語りかけています。

監督のトークも交え、自然と共生して生きることの大切さをふりかえってみませんか？

日　時：11月6日(土)14：00～17：00
場　所：湘南とつかYMCAホール
（JR東海道線・市営地下鉄　戸塚駅下車徒歩5分）
チケット：前売券900円　/　当日券1,000円
（取扱場所：地球の木及び横浜中央YMCA）
主　催：アボン横浜上映実行委員会
共　催：地球の木　NPOサルボン
後　援：横浜YMCA
横浜市教育委員会、神奈川県国際交流協会、
横浜市国際交流協会（申請中）
問い合せ：地球の木

本誌は古紙100%の再生紙を使用しています。